

2012 年度 研究所・センター事業報告書

研究所・センター名	国際言語文化研究所
研究所・センター長名	崎山 政毅

I. 研究実績の概要（公開項目）

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5ヵ年)および2012年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。なお本欄は、研究所・センターの総括として使用いただき、プロジェクトごとの詳細な実績報告は、別紙「重点プロジェクト実績報告書様式」(非公開)に記述のうえ提出ください。

2012年度の国際言語文化研究所(以下、「言文研」と略す)の研究所重点研究プログラムでは、下記の9プログラムに取り組んだ。そのうえで、研究所活動の展開と各プログラムの進展状況を適宜ふまえて、①から⑤までの5つをメイン・プログラムとし、4つをサポート役を果たすサブ・プログラムとして位置づけ、プログラム間の有機的連携・結合を意識的に追求した。

- ① 環カリブ地域の言語圏横断的な文学および文化の研究
- ② 近赤外分光法(NIRS)を用いた、第2言語習得脳内メカニズムの解明
- ③ 国際正義共生研究会(カタストロフィと正義)
- ④ 日本人の国際移動の研究(第二次世界大戦期の在外日本人の強制移動体験の比較研究)
- ⑤ 第二次大戦期の在外日本人の非文字データ研究

本事業報告の後の頁に詳しくあるように、いずれのプロジェクトも、言文研の総合計画のもとで、今後の研究展開を継続的にすすめることで、新しく高度な研究領域の開拓につながる目的を達成している。とりわけ、サブ・プログラム⑥の代表者・中川成美・文学部教授の仲介で、言文研秋季企画Ⅱとして「カタストロフィと正義」公開講演会を成功裡に開催できたことを強調しておきたい。本企画においては、①と③のプログラムとの緊密な協働のもとで、アンスティチュ・フランセ日本およびアンスティチュ・フランセ関西の公式協力によって、カリブ海のフランス海外県マルチニック島から、国際的に高名な作家・詩人・映画監督・NGO アクティヴィストであるパトリック・シャモワゾー氏を招請し、①代表の西成彦・先端研教授が司会、③メンバーのポール・デュムシェル・先端研教授がディスカッサント、⑥代表の中川・文学部教授が全体モデレーターをそれぞれ務めた。講演会ではマルチニックの「ペレー火山大噴火」と「東日本大震災」とを重ね合わせた日仏二語による朗読パフォーマンスを契機として、活発な議論が展開された。この企画にあっても、また、④⑤プログラムにおいても、若手研究者・後期課程院生の役割と業績に十分な配慮をおこない、プログラム総体として研究成果の国際化・高度化・社会的発信を達成できたと考える。

さらに、プログラム②は被験者の日英バイリンガル状態からの英語喪失に「近赤外分光法」を用いた研究をすすめ、世界的に見ても稀有かつ最先端の成果を上げている。また、プログラム④⑤は内容的にも緊密な相関性をもっているものだが、④において、これまで各国の事例研究が中心であった戦時強制収容を、アメリカ合衆国を中心とした南北アメリカ大陸規模での戦時秩序形成の文脈に位置づけ、さらにそこに在外日本人の強制移動・収容体験を、太平洋規模での広域的な共通経験として再解釈するという新たな成果を基盤に、⑤の具体的成果として『カナダ日本人漁業移民の見た風景—前川家「古写真」コレクション—』を刊行し、⑤の報告に述べたようにマスメディアでも大きく取り上げられた。

- ⑥ トラベル・ライティングの研究
- ⑦ 風景の政治・社会・文化的構造の研究
- ⑧ 語りえない者の語りに関する研究
- ⑨ バックラッシュ時代の平和構築とジェンダーの研究

の各プログラムにあっては、プログラム⑥が2013年3月26日、27日に若手の外国人研究者を中心とする国際ワークショップを言文研冬季企画Ⅲとして開催し、多数の外国人研究者の関心によって、世界システムのずれに伴う文学的課題としての苦悩の問題がより鮮明に浮上する展望を獲得した。プログラム⑦は種々の国際学会・協会での報告に加え、多数の論文として成果を上げ、今後はより高次の研究領域開拓が課題であることを確認した。プログラム⑧⑨は、この間言文研のプロジェクトとして行ってきた研究の総決算的な成果に到達し、言文研総合計画の着実な進展を示した。

II. 研究業績（公開項目）

国際言語文化研究所では、研究業績について、各プロジェクトにおいて、項目ごとに主要な5件までに絞って集約した。

1) 論文発表

①論文（査読あり）

雑誌論文

1. 崎山政毅, 「架空資本の現在と《知識》運用資本主義下の課題」, 『環境思想・教育研究』第6号, 環境思想・教育研究会, pp. 31-39, (2013)
2. Taura, H. and Nakanan, M. (2013). 'Bilingual First Language Attrition from Linguistic and Neuroimaging Perspectives: A functional near-infrared spectroscopy (fNIRS) study' *Studies in Language Science*, 3, 17-42. (共著・第1筆者)
3. Taura, H. and Taura, A. (2012). 'A Test on the Regression Hypothesis, Using a Brain-Imaging Technique of fNIRS' *Proceedings of the JACET 51st International Convention*, 296-299. (共著・第1筆者)
4. Taura, H. and Taura, A. (2012). 'Linguistic and narrative development in a Japanese-English bilingual's first language acquisition: a 14-year longitudinal case study' (2012), *International Journal of Bilingual Education and Bilingualism*, 15, 4, 475-508. (共著・第1筆者)
5. 河原典史, 「20世紀初頭のカナダ西岸における捕鯨業と日本人移民」, 『地域漁業研究』地域漁業学会, 第52巻第2号, pp. 65-83, (2012)
6. 湊圭史, 「オーストラリアン・グロテスクの現在—近年の豪州小説から—」, 『オーストラリア研究』オーストラリア学会, 第26号, pp. 85~97, (2013)
7. 宮下和子, 「America Keeps Singing —19世から21世紀へのコミュニケーション—」, *Kyushu Communication Studies*, 日本コミュニケーション学会九州支部, Vol. 10, pp. 37~46, (2012)
8. 浅野敏彦, 「『航米日録』の漢語語彙—巻一を中心に—」, 『国語語彙史の研究』32号, 和泉書院 pp. 283~pp. 299
9. 梁仁實, 「日本テレビ映像の在日済州人表象」, 韓国ソウル大学日本研究所編, 『日本批評』, 第8号, pp. 80-117, (2013)
10. 梁仁實, 「帝国日本を浮遊する映画（人）たち」, 『国際高麗学会ソウル支部論文集』, 14巻, pp. 95-120, (2012)

図書

1. 河原典史, 「ビクトリアの球戯とバンクーバーの達磨落とし— 20世紀初頭のカナダにおける日本庭園の模索」, マイグレーション研究会編, 『エスニシティを問いなおす: 理論と変容』関西学院大学出版会, pp. 18-45. (2012)
2. 河原典史, 「第9章 朝鮮人学生の留学と就業: 立命館大学の場合」, マイグレーション研究会編, 『来日留学生の体験: 北米・アジア出身者の1930年代』, 不二出版, pp. 157-172. (2012)
3. 佐藤量, 「第10章 大連における日本人学校への「留学」: 中国人の日本留学をめぐる多様性」, マイグレーション研究会編, 『来日留学生の体験: 北米・アジア出身者の1930年代』, 不二出版, pp. 173-192. (2012)

②論文（査読なし）

雑誌論文

1. 西成彦, 「比較植民地文学研究の基盤整備(1)「引揚者」の文学: まえがき」, 『立命館言語文化研究』24巻4号, pp. 111-114, (2013)
2. 杉浦清文, 「(旧)植民地で生まれ育った植民者—ジーン・リースと森崎和江—」, 『立命館言語文化研究』24巻4号, pp. 159-170, (2013)
3. Kiyofumi Sugiura, "The Ghost and the Maternal Place: Jean Rhys's After Leaving Mr Mackenzie", 『国際英語学部紀要』第15号, pp. 31-47, (2013)
4. 近藤宏, 「気候変動緩和枠組みに動員される先住民」, 『立命館言語文化研究』24巻4号, pp. 59-72, (2013)
5. 崎山政毅, 「『敵』は帝国主義連合における危機——ラテンアメリカの対応」, 『インパクション』186号, pp. 61-64, (2012)
6. 崎山政毅 (翻訳・解題), ヴィッキー・ウンルー「ラテンアメリカのアヴァンギャルド」, 『立命館文学』第627号, pp. 164-191, 2012年7月

7. 崎山政毅 (翻訳・注釈・解題), マリオ・ヂ・アンドラーヂ『狂乱のサンパウロ』(1922年)より「イピランガのもつれ騒ぎ」, 『立命館言語文化研究』第24巻第1号, pp. 33-49, 2012年9月
8. 崎山政毅 (翻訳・解題), ヴィッキー・ウンルー「ラテンアメリカのアヴァンギャルド: 具体的で幻想的な聴衆を構成する(上)」, 『立命館文学』第628号, pp. 40-57, 2012年10月
9. 崎山政毅 (翻訳・解題), ヴィッキー・ウンルー「ラテンアメリカのアヴァンギャルド: 具体的で幻想的な聴衆を構成する(下)」, 『立命館文学』第629号, pp. 63-82, 2012年10月
10. 田浦秀幸, 「千里国際学園(一条校とインター併設校)でのバイリンガル教育からの示唆」2011年度立教大学英語教育研究所研究成果報告書第4号, pp. 35-40, (2012).
11. Reiko GOTOH, “Justice as Reciprocity Reexamined in the context of Catastrophe”, 『立命館言語文化研究』, 24巻4号, pp. 33-42, (2013)
12. 後藤玲子, 「現代正義と支援の思想」, 『立命館言語文化研究』, 24巻4号, pp. 103-109, (2013)
13. 後藤玲子, 「デモクラシーの沈黙——非決定性の論理と構造——」宮脇昇・玉井雅隆編著『コンプライアンス論から規範競合論へ——ウソの社会的発生から消滅まで——』, 晃洋書房, pp. 157-178, (2012)
14. 後藤玲子・齊藤拓・小林隼人「アメリカ合衆国」, 宇佐見耕一・小谷眞男・後藤玲子・原島博編『世界の社会福祉年鑑2012年度版』, 旬報社, pp. 305-363, (2012)
15. 南川文理, 「『アメリカン・コミュニティ』としての収容所: 在米日系人戦時強制収容と人種主義」『立命館国際研究』立命館国際関係学会, 25巻2号, pp. 1-15, (2012)
16. 河原典史, 「『東宮殿下渡欧記念帖—金田之栄—』に写る玉名の子供たち: 第二次大戦前におけるカナダ移民の一断面」, 『歴史玉名』, 玉名歴史研究会, 第60号, pp. 3-12, (2012)
17. Yuko Nakama, “Modernity and Sensibility in the Japanese Art of Landscape” in: Laboratory for Research on Cities, Institute for Advanced Studies, University of Bologna (online journal), March 2013.
18. 住田翔子 (翻訳), 刘 成紀 (著)「中国美学における農耕文化的特性と景観表現」, 『立命館言語文化研究』24巻3号, pp. 63-69, (2013)
19. 要真理子 (翻訳), クリスティーナ・ヴィルコシェフスカ (著)「風景と環境」, 『立命館言語文化研究』24巻3号, pp. 79-88, (2013)
20. 佐藤渉「エスニシティの境界を超えて書く—ナム・リーの短編小説に見るアジア系オーストラリア文学の新たな展開—」立命館法学別冊『ことばとそのひろがり』, 立命館大学法学会, 5号, pp. 119~139, (2013)
21. 松本克美, 「障がい児を産まない権利? 障がい児として生まれない権利?」, 『ジェンダーと法』9号, pp. 105-114, (2012)
22. 村本邦子, 「国際シンポジウム・ワークショップ「人間科学と平和教育—体験的心理学を基盤とした歴史・平和教育プログラム開発の視点から」を開催して—HMHのこれから」, 『共同対人援助モデル研究』, 5巻, pp. 157~166, (2012)
23. 姫岡とし子, 「ドイツにおけるホロコーストの記憶文化と性」『歴史と地理』No. 654, pp. 1-15, (2012)
24. 崎山政毅「スペインにおける《生き延び》のための闘争」, 『インパクション』第188号, pp. 78-83. (2013)
25. 崎山政毅「現代メキシコにおける武装闘争」, 『立命館言語文化研究』第24巻1号, pp. 19-32. (2012)
26. 秋林こずえ, 「ジェンダー視点からの基地撤廃グローバル・ネットワーク」, 『季刊戦争責任研究』第77号, 日本の戦争責任資料センター, pp. 23-30, (2012)
27. 湯浅彩央, 「『航米日録』の外国地名表記」, 『立命館文学』, 立命館大学文学部人文学会, 第630号, pp. 295~pp. 304
28. 内藤由直, 「貴司山治『維新前夜』と近代の超克——思想戦とアジア解放の幻」, 『フェンスレス』, 第1号, pp. (2013/3)
29. 伊藤純「小林多喜二全集」の編纂過程〔戦前編〕——貴司山治資料などからの検討」, 『フェンスレス』, 第1号, pp. (2013/3)
30. 村田裕和「計画された国土 構成された未来——貴司山治『青人草』と〈東亜協同体〉の論理」, 『フェンスレス』, 第1号, pp. 37-51 (2013/3)
31. 泉谷瞬「蟻と人間の衝突——貴司悦子「蟻の婚礼」における想像力」, 『フェンスレス』, 第1号, pp. (2013/3)

32. 友田義行, 「文学と映画の〈偶然性〉論——花田清輝・安部公房を基点に」, 『フェンスレス』, 第1号, pp. 75-95 (2013/3)
33. 村田裕和, 「詩誌『コスモス』検閲の研究 —伊藤和「B29の大音」削除から不掲載へ— (上)」, 『立命館文学』, 第627号 pp. 1-10, (2012)
34. 村田裕和, 「プランゲ文庫所蔵『コスモス』第7号検閲文書【I】」, 『立命館文学』, 第627号 pp. 146-163, (2012)
35. 村田裕和, 「詩誌『コスモス』検閲の研究 —伊藤和「B29の大音」削除から不掲載へ— (下)」, 『立命館文学』, 第628号, pp. 1-11, (2012)
36. 村田裕和, 「翻刻 プランゲ文庫所蔵『コスモス』第7号検閲文書【II】 —伊藤和「B29の大音」(検閲ゲラ版) 附, 参考資料」, 『立命館文学』 第628号, pp. 12-24, (2012)
37. 村田裕和, 「北総の詩人伊藤和はいかにして一揆の鐘を響かせたか」, 『立命館文学』, 第630号, pp. 269-277, (2013)
38. 池内靖子, 「恋愛小説と映画をめぐる感覚変容」の「序文」『立命館言語文化研究』24巻2号, pp. 49-54, (2013)
39. 梁仁寛, 「1930年代日本帝国内における文化「交流」: 映画『春香伝』の受容を中心に」, 『立命館言語文化研究』, 24巻2号, pp. 55-72, (2013)

図書

1. 東長靖・石坂晋哉(編), 『持続型生存基盤論 ハンドブック』, 京都大学学術出版会, 佐々木祐分担執筆分, pp. 135-140; 167-176; 203-210, (2012)
2. 宇佐見耕一・小谷眞男・後藤玲子・原島博編『世界の社会福祉年鑑2012年度版』, 旬報社, pp. 1-726, (2012)
3. 後藤玲子編『ノマド・逃がす・ケイパビリティ』(トヨタ財団2010年度 研究助成プログラム 研究実施報告書), (2013)
4. マイグレーション研究会編(共著)『エスニシティを問いなおす: 理論と変容』関西学院大学出版会, pp. 18-45 (南川が担当), pp. 249-265 (河原が担当) (2012)
5. マイグレーション研究会編(共著)『来日留学生の体験: 北米・アジア出身者の1930年代』不二出版, pp. 157-171 (河原が担当), pp. 173-192 (佐藤が担当), (2012)
6. 河原典史, 『カナダ日本人漁業移民の見た風景—前川家「古写真」コレクション—』, 三人社, 197p, (2013)
7. 岡野八代, 『フェミニズムの政治学——ケアの倫理をグローバルな社会へ』, みすず書房, 448p, (2012)
8. 松本克美『続・時効と正義 — 消滅時効・除斥期間論の新たな展開』, 日本評論社, 328p, (2012)
9. 山下英愛(共編)『「慰安婦」問題の解決に向けて』, 白澤社, 267p, (2012)
10. 監修=牧野守/企画構成=雨宮幸明/解説=牧野守・井上史・雨宮幸明, 『ファシズムと文化新聞『土曜日』の時代——1930年代能勢克男映像作品集』(DVD版), 六花出版, (2012)
11. 盛山和夫・上野千鶴子・武川正吾編『公共社会学I』, 東京大学出版会, pp. 127-138 (宮本直美), (2012)

2) 学会発表

①海外での発表

1. H. Taura, “Effects of Bilingual Experiences on Numeral and Story-Telling Tasks: a Preliminary Neuroimaging (fNIRS) study” Association for the Scientific Study of Consciousness 16. Brighton, UK. July 4-5, 2012
2. Reiko Gotoh, “Toward a Conditional Basic Income Welfare State? —Capability Approach and “Tax and Social Security Harmonization” Reform in Japan—,” Fairness and the Welfare State in the Age of Aging, PSE Building 618, Korea University, May 11-12, 2012
3. Reiko Gotoh, “Securing Basic Capability for All,” (with Naoki Yoshihara), 11th Meeting of Society for Social Choice and Welfare, New Delhi, August 17-20, 2012
4. Reiko Gotoh, “The possibility of Constructing Group Appraisals of Capabilities—Focusing on the “Capability to Move” of Persons with Limited Vision,” HDCA International Conference 2012, Jakarta, 5-7 September 2012
5. 河原典史, 「植民地朝鮮における竹中缶詰製造所の展開 —濟州分工場の映像とともに—」, 漢拏日報・翰林邑

事務所・濟州伝統文化研究所共同主催，韓国・翰林市，2013年3月2日

6. The Repetition and Recurrence of Disaster: 3/11 (The 2011 Tohoku Earthquake and Fukushima Nuclear Disaster) in the Work of Tawada Yoko, メカデミアソウル大会, 2012年12月1日, 於東国大学
7. Yuko Nakama, Hans Dickel, Keynote speech for the section “The multiple Artwork”, The 33rd Congress of the International Committee of History of Arts, Nuremberg Convention Center, July 19, 2012.
8. ウェルズ恵子, 「「ブルーズ」の擬人化と象徴的意味について」, 国際バラッド学会, トルコ・アクヤカ市, 2012年10月10日
9. Yasuko Ikeuchi, “Son Kum’ s video and performance works,” 英国日本研究協会 (BAJS), 2012 Annual Conference, University of East Anglia, Norwich/UK, 2012年9月6日
10. AMEMIYA, Komei, “Cinematic Locality and Movie Criticism between ‘Prokino’ and ‘Workers Film and Photo League’ ”, Association for Japanese Literary Studies (AJLS) Conference 2012, Panel 8: “Film”, The Ohio State University, (2012)
11. MIYAMOTO, Naomi, “The Takarazuka Revue and Fans’ Support in a Theatre”, 7th Conference of the European Research Network Sociology of the Arts, 06/09/2012, Vienna Universtät, Austria (2012)

② 国内での発表

1. 西成彦, 原佑介, 杉浦清文 (ほか, 朴裕河, 中村和恵), 「〈引揚者〉の文学を考える」, 日本比較文学会, 全国大会, 東京・大正大学, 2012年6月10日
2. 崎山政毅, 「《前夜》の思想」(総合司会), 社会思想史学会, 年次大会, 東京・一橋大学, 2012年10月24日
3. H. Taura, “A Test on the Regression Hypothesis, Using a Brain-Imaging Technique of fNIRS” the JACET 51st International Convention. 愛知県立大学, 2012年9月1日
4. Reiko Gotoh, “Toward a Conditional Basic Income Welfare State? —Capability Approach and “Tax and Social Security Harmonization” Reform in Japan—,” Fairness and the Welfare State in the Age of Aging, PSE Building 618, Korea University, May 11–12, 2012
5. 後藤玲子, 「潜在能力アプローチの視座——非連続性と特殊へのまなざし——」フェアトレードによる貧困削減と徳の経済の構築に向けた理論的・実証的研究会, 京都大学, 2012年6月2日
6. 後藤玲子, 「すべての人に基本的潜在能力を！——グループ別評価にもとづく社会的選択手続きの構想」, SPSN (Social Policy Studies Network) 第92回研究会, 法政大学, 2012年8月11日
7. 後藤玲子, 「ケイパビリティ——本人が選ぶ理由のある生のかたまり——に基づく社会的選択」, 『支援のこれから研究会議第2弾！——ケイパビリティ・アプローチの臨床的展開に向けて——』, 立命館大学, 2012年12月1日
8. 後藤玲子, 「潜在能力アプローチにもとづく医療資源配分の社会的選択——理論と臨床——」, 日本生命倫理学会 第24回年次大会, 公募シンポジウム「QALY (Quality-Adjusted Life Year) と医療資源配分—その倫理的基盤—」, 立命館大学, 2012年10月27・28日
9. Reiko Gotoh, “Economic Thought of Cambridge and LSE, and the Foundations of the Welfare State” (Grants-in-Aid for Scientific Research (A)), Hitotsubashi University, March 18–20, 2013
10. Reiko Gotoh, “Operational formulation of Capability Approach—Consumption as Production—”, WEAI conference, Keio University, DECISION-MAKING AND THE CAPABILITY APPROACH session, March 16, 2013
11. 佐藤量, 「生活者から見る上海100年の歴史」, 上海史研究会, 日本大学通信教育部1号館地下会議室, 2012年7月7日
12. 河原典史「カナダへ渡った鳥取県の人びと：ガーディナーとしての誇り」日本移民学会ワークショップ, 2012年9月29日
13. 佐藤量, 「戦後中国の日本人送還をめぐる米中政策協議」, 日本人の国際移動研究会・マイグレーション研究会合同シンポジウム, キャンパスプラザ京都 2F 第3会議室, 2012年10月13日
14. 佐藤量, 「戦後中国の日本人引揚げ(遣送)をめぐる米中政策協議」, 共同研究「近現代世界の相互依存と連環の形成と構造」第4回勉強会, 京都橘大学, 2013年2月18日

15. 河原典史, 「カナダへ渡った鳥取県の人びと—ガーディナーとしての誇り—」, 日本移民学会ワークショップ, 境港市・夢みなとタワー・シアタールーム, 2012年9月29日
16. 佐藤量, 「生活者から見る上海100年の歴史」, 上海史研究会, 日本大学通信教育部1号館地下会議室, 2012年7月7日
17. 中川成美, 「災禍を歩く—中野重治と災害」くちなし忌講演, 坂井市丸岡図書館, 2012年8月18日, 於坂井市民ホール
18. 中川成美, 「母と娘は和解できるのか——ケアの文学的課題をめぐって——」, 日本近代文学会2012年度秋季大会ワークショップ, 2012年10月28日, 於ノートルダム清心女子大学
19. 中川成美, 「旅する視覚—海外紀行文という領域」, 立命館大学土曜講座, 2013年2月23日, 於立命館大学末川記念会館講義室
20. 中川成美, 「トラベル・ライティングとは何か」, 立命館大学国際言語文化研究所主催国際ワークショップ「トラベル・ライティングという領域」発表, 2013年3月26日, 於立命館大学末川記念会館第3会議室
21. 仲間裕子, 特別報告「カスパー・ダーヴィト・フリードリヒ — 調和と乖離の自然観」, 日本シェリング協会, 第21回大会, 明治大学, 2012年7月7日
22. 海寶康臣, 「主語名詞句が左方転位化されている日英語の左方転位構文」, 日本語用論学会第15回大会, 大阪学院大学(大阪), 2012年12月2日
23. 湊圭史, 「オーストラリアン・グロテスクの現在——近年の豪州小説から」, オーストラリア学会第23回全国研究大会・第Ⅱ分科会, 大阪大学豊中キャンパス(大阪), 2012年6月10日
24. 湊圭史, 「境界の言語—オーストラリア現代小説を読む」立命館大学英米文学会第22回大会, 立命館大学衣笠キャンパス(京都), 2012年7月14日
25. 宮下和子, 「スPOークン・ワードのコミュニケーションカ〜グローバル・ボイスへ」, 日本コミュニケーション学会第19回九州支部大会, 熊本学園大学(熊本), 2012年10月6日
26. 姫岡とし子「歴史研究とジェンダー—近代ドイツのナショナリズムを例にして」, メトロポリタン史学会, 首都大学東京, 2012年4月21日
27. 秋林こずえ「安保理決議1325号国内行動計画」, 国際シンポジウム『ジェンダーと平和・安全保障』, 立命館大学, 2012年11月3日
28. Kozue Akibayashi, “Peace in North East Asia from a gender perspective: Has “more women” ever been given a chance?”, International Peace research Association 2012, 三重県男女共同参画センター, 2012年11月24日
29. 山下英愛, 「朝鮮の新女性にみる貞操観」, 総合女性史研究会2012年度大会, 昭和女子大学, 2013年3月25日
30. 浅野敏彦, 「『航米日録』巻1の二字・三字漢語語彙—幕末・明治初期の漢語—」, 第450回同志社国語学研究会, 京都・同志社大学, 2012年6月24日
31. 湯浅彩央, 「『航米日録』にみる外国地名表記」, 第136回日本文学会研究例会, 京都・立命館大学, 2012年9月9日
32. 陶萍, 「『航米日録』における「施設語彙」をめぐって—語構成の観点から—」, 西洋見聞集研究会シンポジウム, 立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第3会議室, 2013年3月7日
33. 浅野敏彦, 「『航米日録』における中国白話語的な語をめぐって」, 西洋見聞集研究会シンポジウム, 立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第3会議室, 2013年3月7日
34. 彦坂佳宣, 「西欧巡業記『広八日記』との比較—正・俗表現の位相—」, 西洋見聞集研究会シンポジウム, 立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第3会議室, 2013年3月7日
35. 高橋秀寿, 「エコロジーと風景——1970年代以降のドイツにおける空間の変容」 「21世紀の風景論」研究会, 立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第三会議室, 2013年1月31日
36. 間庭大祐, 「H・アレントにおける権力の構成, あるいは評議会制について」, 日本社会学理論学会第7回大会, 立命館大学, 2012年9月2日
37. 間庭大祐, 「H・アレントの革命論における〈始まり〉について: 絶対者の問題に注目して」 唯物論研究協会第

35 回大会, 法政大学, 10 月 21 日

3) 省庁, 学会, 財団などの表彰

なし

4) 外部資金獲得 (競争的研究費, 共同研究, 受託研究, 奨学寄附金等)

1. 競争的資金, 科学研究費補助金基盤研究C (H23~H25) (一般) (23520536) (日本学術振興会) 「早期日英バイリンガルの 14 年間の縦断研究のナラティブ分析研究」, 摂南大学 田浦アマンダ (代表), 田浦秀幸 (分担), 計 299 万円
2. 競争的資金, 科学研究費補助金基盤研究C (H23~H25) (一般) (22520600) (日本学術振興会) 「中国の大学での英語教員養成課程の現地縦断調査 —日本への提言」, 京都文教大学 陸君 (代表), 田浦秀幸 (分担), 計 286 万円
3. 競争的資金, 交易信託澁澤民族学振興基金 (H24) 「大学院生等に対する研究活動助成」 「日本人移民の集団的同一性の継承の諸相と「日系人」: 1960 年代以降のブエノスアイレスにおける人種・国民カテゴリーとの関係」, 石田智恵, 50 万円
4. 競争的資金, 科学研究費補助金基盤研究C (H24~H26) (一般) (日本学術振興会) 「海外紀行文の総合的研究 —視覚的想像力の諸相をめぐって」, 中川成美, 507 万円
5. 競争的資金, 科学研究費補助金基盤研究B (H22~H25) (日本学術振興会) 「『認識』と『構築』の自然の風景像 — 21 世紀の風景論」, 仲間裕子 (代表), 計 1,845 万円
6. 競争的資金, 科学研究費補助金基盤研究C (H22~H25) (一般) (日本学術振興会) 「アフリカンアメリカン口頭文化の総合的研究」, ウェルズ恵子 (代表), 計 377 万円
7. 競争的資金 科学研究費補助金 (学術研究助成基金助成金) 若手研究B (H24~H27) 「1930~40 年代日本アナキズム文芸の研究 —文献データベースの構築とその応用—」, 村田裕和 (代表), 計 429 万円
8. 学術研究助成, (H23~H24) (財団法人国土地理協会) 「カナダ・ブリティッシュコロンビア州における火災保険図をめぐる基礎的研究」, 河原典史
9. 競争的資金, 科学研究費補助金基盤研究C (H24~H26) (一般) (日本学術振興会) 「芸術宗教と音楽の公共性に関する社会学的研究」, 宮本直美, 計 455 万円

5) 特許

①出願

なし

②取得

なし

6) その他 (報道発表, 講演会等)

①報道発表

1. ウェルズ恵子, 「歌は声の文学」 京都三条 FM ラジオカフェ, ゆうづミュージックカフェ出演
2. 河原典史, 中日新聞 「100 年の時を越え: 帳簿 子孫の手に」, 2012 年 4 月 14 日
3. 河原典史, 熊本日日新聞 「カナダ移民足跡 親族に聞き取り 玉名市」, 2012 年 8 月 13 日

②講演会

1. 米山裕 「環太平洋地域における第二次世界大戦と在外日本人: 敵国人となること, 国を失うこと」 立命館土曜講座「特集 第二次世界大戦における在外日本人の強制移動」立命館大学末川記念会館講義室, 2012 年 5 月 5 日.
2. 小川真和子 「第二次世界大戦中のハワイ: ハワイ在住日本人・日系人のたどった運命」立命館土曜講座「特集 第二次世界大戦における在外日本人の強制移動」立命館大学末川記念会館講義室, 2012 年 5 月 5 日.
3. 和泉真澄 「鉄条網なき強制収容所: 第二次世界大戦下の日系カナダ人」立命館土曜講座「特集 第二次世界大戦における在外日本人の強制移動」立命館大学末川記念会館講義室, 2012 年 5 月 12 日.
4. 南川文里 「鉄条網のなかのコミュニティ: 強制収容は在米日系人社会をどう変えたのか」立命館土曜講座「特集 第二次世界大戦における在外日本人の強制移動」立命館大学末川記念会館講義室, 2012 年 5 月 19 日.
5. 根川幸男 「第二次世界大戦前後の南米日系人の動向: ブラジルの事例を中心に」立命館土曜講座「特集 第二次

世界大戦における在外日本人の強制移動」立命館大学末川記念会館講義室, 2012年5月26日.

6. 崎山政毅「グローバル社会の中心と周辺」, 「NPO 法人アクセス——共生社会をめざす地球市民の会」第1回公開講演会、京都東山いきいき社会活動センター、2012年5月27日
7. Yuko Nakama, “Aesthetics of Landscapes in Japanese Modern Art”, “Romantic Landscapes and Sublime”, Beijing Normal University, School of Philosophy and Science, October 13, 18, 2012.
8. Yuko Nakama, “Modernity and Sensibility in the Japanese Art of Landscape”, University of Bologna, March 1, 2013.
9. 荒このみ, 「私には夢がある——キング牧師とマルコムX」, 聖学院大学欧米文化学科2012年度特別講演会, 聖学院大学(埼玉), 2012年11月28日
10. 岡野八代「ケアすることが「損」ではない社会に」, 西宮市男女共同参画センターウェブ, 2012年1月11日・18日
11. 秋林こずえ「うちなー女性の平和運動」, 那覇女性センター講座, 那覇女性センター, 2012年1月14日
12. 彦坂佳宣, 「越境者たちの方言誌」, 第56回日本文学会大会, 京都・立命館大学, 2012年6月10日
13. 市井吉興, 「体罰問題の背景にある今日の教育をめぐる問題」京滋私大教連第56回臨時大会, 池坊短期大学2012年3月2日
14. 村田裕和「『近代思想』のドラマ批評——〈新しい女〉をめぐる」, 大杉栄と仲間たち——「近代思想」100年記念集会, 東京・明治大学和泉キャンパス, 2012年10月13日

③その他

1. 崎山政毅代表, 国際言語文化研究所秋季企画I第1回「ホロコースト・震災・詩」, 立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第3会議室, 2012年10月12日
2. 崎山政毅代表, 国際言語文化研究所秋季企画I第2回「真空の文学——表象としてのカタストロフィ」, 立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第3会議室, 2012年10月19日
3. 崎山政毅代表, 国際言語文化研究所秋季企画II「カタストロフィと正義」, 立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム, 2012年11月15日
4. 崎山政毅代表, 国際言語文化研究所冬季企画I「大日本帝国植民地と文学の言語」, 立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第3会議室, 2013年2月23日・24日
5. 崎山政毅代表, 国際言語文化研究所冬季企画II「イディッシュ文学が遺したもの」, 立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第3会議室, 2013年3月24日
6. 崎山政毅代表, 国際言語文化研究所冬季企画III「トラベル・ライティング研究会」, 「トラベル・ライティングという領域」, 立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第3会議室, 2013年3月26日・27日
7. 西成彦代表, 環カリブ文化研究会, 「「引揚者」文学の概念を拡張する」, 立命館大学衣笠キャンパス学術館第3研究会室, 2012年5月12日
8. 後藤玲子代表, 国際正義共生研究会, 「まちの居場所シンポジウム——カタストロフィ後の回復力と可塑性——」, 立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム, 2013年2月20日・21日
9. 後藤玲子代表, 国際正義共生研究会, 支援のこれから研究会議「ケイパビリティ・アプローチの臨床的展開に向けて」, 立命館大学国際平和ミュージアム2階会議室, 2012年12月1日
10. 後藤玲子代表, Co-organized by Naoki Yoshihara and Reiko Gotoh, Hitotsubashi GCOE conference, Ethical foundation of social choice theory, March 22, 2013, Hitotsubashi University.
11. 南川文理代表, 日本人の国際移動研究会, 「ブラジル日本移民について」, キャンパスプラザ京都(6F 第1講習室), 2012年6月23日
12. 南川文理代表, 日本人の国際移動研究会・マイグレーション研究会合同シンポジウム「第二次世界大戦における在外日本人の強制移動」, キャンパスプラザ京都2F 第2会議室, 2012年10月13日
13. 河原典史「出雲・浜田から美浜へ運ばれた商品: 早瀬浦の廻船(3)」『広報みはま』: 20, 2012年10月号
14. 河原典史「カナダ太平洋鉄道と美浜の人びと(1)」『広報みはま』: 22, 2012年11月号
15. 河原典史「雪崩に散った若い命: カナダ太平洋鉄道と美浜の人びと(2)」: 22, 2013年1月号

16. 河原典史「雪崩に散った若い命：カナダ太平洋鉄道と美浜の人びと(3)」：24，2013年3月号
17. 中川成美代表，トラベル・ライティング研究会，国際ワークショップ「"An Introduction to the Makino Mamoru Collection at Columbia University's C.V. Starr East Asian Library"ーコロンビア大学東亜図書館牧野守コレクションにおける映画資料の活用と保存ー牧野守コレクションアーキビストBeth Katzoff氏を迎えて」，立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第3会議室，2012年6月25日
18. 中川成美代表，トラベル・ライティング研究会，立命館大学衣笠キャンパス学而館第2研究会室，2013年3月1日
19. 仲間裕子代表，第1回21世紀の風景論研究会，「風景の諸相」，立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第3会議室，2012年6月16日
20. 仲間裕子代表，第2回21世紀の風景論研究会，「Contemporary Meaning of European Landscape ヨーロッパの景観の今日的意味」・「Imago urbis: Rome and Kyoto between myth and history 都市のイメージ：ローマと京都，その神話と歴史」，立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第3会議室，2012年9月24日
21. 仲間裕子代表，第3回21世紀の風景論研究会，「風景の政治的・社会的・文化的構造」，立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第3会議室，2013年1月31日
22. ウェルズ恵子代表，ヴァナキュラー文化研究会講演会「福島を語るー被災から復興へー」，立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第3会議室，2012年7月13日
23. ウェルズ恵子代表，ヴァナキュラー文化研究会「フランケンシュタインについて」，立命館大学衣笠キャンパスウェルズ恵子研究室，2012年9月17日
24. ウェルズ恵子代表，ヴァナキュラー文化研究会（人文科学研究所回復研究会共催），「バラッド（物語歌）のカー記憶喪失と失語からの回復」，立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第3会議室，2012年11月9日
25. ウェルズ恵子代表，ヴァナキュラー文化研究会（人文科学研究所回復研究会共催），「ブルーズと実存主義：ハウリン・ウルフから『嘔吐』へ」，立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第3会議室，2013年3月1日
26. 秋林こずえ代表，第1回ジェンダー研究会，「岡野八代著『フェミニズムの政治学』を読む」，立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム，2012年4月19日
27. 秋林こずえ代表，第2回ジェンダー研究会，「アジアにおける人身売買」，立命館大学衣笠キャンパス学而館第2研究会室，2012年6月28日
28. 秋林こずえ代表，第3回ジェンダー研究会，「スウェーデンにおける女性研究者支援」，立命館大学衣笠キャンパス創思館303-304教室，2012年9月28日
29. 秋林こずえ代表，ジェンダー研究会，国際シンポジウム「ジェンダーと平和・安全保障」，立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム，2012年11月3日
30. 秋林こずえ代表，ジェンダー研究会，「ディアスポラとアート：養子の権利運動と創作活動の狭間で」，立命館大学衣笠キャンパス学而館第3研究会室，2012年11月13日
31. 秋林こずえ代表，第4回ジェンダー研究会，「米軍プレゼンスと女性・子どもの人権ーブックロード・センター（フィリピン，オロンガポ市）の活動」，立命館大学衣笠キャンパス洋洋館964教室，2012年12月3日
32. 秋林こずえ代表，第5回ジェンダー研究会，「台湾におけるジェンダー教育の進展と実情」，立命館大学衣笠キャンパス学而館第2研究会室，2012年12月10日
33. 秋林こずえ代表，第6回ジェンダー研究会，上映とトーク『秋瑾 Autumn Gem』，立命館大学衣笠キャンパス学而館第3研究会室，2012年12月13日
34. 秋林こずえ代表，第7回ジェンダー研究会，「言語・表象とジェンダー」，立命館大学衣笠キャンパス学而館第2研究会室，2012年12月19日
35. 湯浅彩央代表，西洋見聞集研究会シンポジウム（2012年度国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト研究B1），「『航海米日録』に見る玉虫の表現意識ー外国地名表現からー」，立命館大学衣笠キャンパス末川記念会館第3会議室，2013年3月7日
36. 第10回 占領開拓期文化研究会（2012年度国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト研究B2），ウイングス京都会議室ビデオシアター，2012年8月4日，上映会『岡山と高知 作家同盟の講演旅行 1931.11-12』（16分），

研究報告（萬田慶太, 森祐香里）

37. 第 11 回 占領開拓期文化研究会, 立命館大学衣笠キャンパス学而館第 1 研究会室, 2012 年 9 月 19 日, 研究報告（坂本彩香, 鳥木圭太, 伊藤純, 和田崇）
38. 第 12 回 占領開拓期文化研究会, 立命館大学衣笠キャンパス学而館第 3 研究会室, 2012 年 12 月 26 日, 研究報告（沖川麻由子, 内藤由直）
39. 第 13 回 占領開拓期文化研究会, 立命館大学衣笠キャンパス学而館第 3 研究会室, 2013 年 3 月 10 日, 研究報告（藤原崇雅, 禧美智章）
40. バイリンガリズム研究会（2012 年度国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト研究 B3）では, 日英バイリンガル 2 人から（一方は 5 歳 8 ヶ月～21 歳 2 ヶ月で他方は 9 歳 11 ヶ月～24 歳 10 ヶ月まで）縦断ストーリーテリングデータを 2 年に 1 度収集し, ナラティブ分析と言語正確さ分析を行った。物語の設定部分と 8 プロット及び登場人物の感情表現に関するナラティブ分析の結果, 両被験者ともに年齢とともにプロットは, 英語モノリンガルやアルファベット言語間のバイリンガル対象先行研究同様, 全て言及されるようになった。しかし, 物語の面白さや深みを出す感情表現は年齢よりも個人差が大きい事も判明した。正確さ分析では, 両バイリンガルとも 15, 6 年間にわたり 93%・96%以上の正解率であり, 特に最終の 2 年間は 4 種類の形態素全てにおいて 99%以上の正解率を示していた。今後は質的な部分の発達段階を見る予定である。
41. 高橋秀寿代表, 第 1 回主権と空間研究会（2012 年度国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト研究 B4）, 「書評会：酒井隆史著『通天閣 新・日本資本主義発達史』」, 立命館大学衣笠キャンパス学而館 2F 第 3 研究会室, 2012 年 11 月 23 日
42. 高橋秀寿代表, 第 2 回主権と空間研究会, 「〈東北〉というアポリアー覇権と空間形成—」, 立命館大学衣笠キャンパス洋洋館 976 教室, 2012 年 12 月 14 日
43. 高橋秀寿代表, 第 3 回主権と空間研究会, 「日本における空間占拠の技法とその帰趨——ジグザグ・デモ／スネークダンスについてのノート」・「日露戦後期神戸の都市開発と空間利用をめぐる社会関係——湊川新開地の露店営業を手がかりに—」, 立命館大学衣笠キャンパス学而館 2F 第 3 研究会室, 2013 年 3 月 22 日
44. 市井吉興代表, 現代レジャー研究会（2012 年度国際言語文化研究所萌芽的プロジェクト研究 B5）, 立命館大学衣笠キャンパス学而館第 1 研究会室, 2012 年 11 月 28 日

以上